

富山高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	実験実習A（機関）	
科目基礎情報							
科目番号	0093			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習			単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	商船学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	4		
教科書/教材	教員の自作テキスト						
担当教員	中谷 俊彦,小林 大,亀井 志聖,布目 明弘,清野 義敬,保前 友高,向瀬 紀一郎,山谷 尚弘,池野 一成,山本 桂一郎,松村 茂実,経田 僚昭,山田 圭祐						
到達目標							
講義で学んだことを校内練習船や実験室の実習を通じて理解を深める。 実験実習の内容を理解し、それを応用することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価基準 1		実験内容を十分に理解している。		実験内容を概ねに理解している。		実験内容を理解していない。	
評価基準 2		実習内容を十分な形でレポートしている。		実習内容を概ねレポートしている。		実習内容をレポートできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	講義で学んだ航海に関する知識や技術について、校内練習船、実験室、演習室での実験や実習をとおして理解を深め、それらを習得するための授業。						
授業の進め方・方法	教員・技術職員の合同チームによる 1 班（学生約 1 0 名）に対する少人数教育						
注意点	3 級海技士第 1 種養成施設必要履修科目及び講習の一部となっており、本実験実習の単位を取得しないと卒業することができない。 本実験実習の単位を取得するためには、レポートで60点以上取得する必要がある。 「授業改善策」 ①内容に興味を持って理解できるように努める。 ②レポート作成に対する適切な指導を行う努力をする。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		実験実習の概要を理解する		
		2週	情報処理		実験実習の内容を理解し、レポートをまとめる		
		3週	航海概論		同上		
		4週	機関概論		同上		
		5週	海洋実習		同上		
		6週	電気電子		同上		
		7週	電気電子		同上		
		8週	力学		同上		
	2ndQ	9週	船舶工学 I		同上		
		10週	消火講習		同上		
		11週	若潮丸実船実習		同上		
		12週	若潮丸実船実習		同上		
		13週	補講・レポート整理		同上		
		14週	電気リレー		同上		
		15週	電気リレー		同上		
		16週	分解組立		同上		
後期	3rdQ	1週	分解組立		同上		
		2週	分解組立		同上		
		3週	材料力学		同上		
		4週	材料力学		同上		
		5週	数理演習		同上		
		6週	数理演習		同上		
		7週	航海計測		同上		
		8週	内燃		同上		
	4thQ	9週	内燃		同上		
		10週	内燃		同上		
		11週	伝熱		同上		
		12週	伝熱		同上		
		13週	潤滑油性状		同上		
		14週	潤滑油性状		同上		
		15週	コース主任対応		同上		

		16週	卒業研究発表会聴講		卒業研究に取り組むプロセスを理解して自身のテーマ決定の参考情報を得る。発表に取り組む姿勢を学ぶ。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	レポート	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	10	0	0	60
専門的能力	30	0	0	10	0	0	40
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0